

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173100363		
法人名	シルバーハウス株式会社		
事業所名	グループホーム びえいの郷		
所在地	上川郡美瑛町大町2丁目5番14号		
自己評価作成日	令和 7年 3月 5日	評価結果市町村受理日	令和7年4月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/017/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigyouNoCd=0173100363-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	合同会社 mocal
所在地	札幌市中央区北5条西23丁目1-10-501
訪問調査日	令和7年3月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

びえいの郷の理念は介護の理念のみならず、職員に対しての理念でもあり、入居者、職員の区別無く「あるがままに一人ひとりの個性を尊重し…共に暮らし、そして支えあう」ことを念頭に置き日々努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)		1 ほぼ全ての家族と
			2 利用者の2/3くらいが			○	2 家族の2/3くらいと
			3 利用者の1/3くらいが				3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどつかんでいない				4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある			○	2 数日に1回程度
			3 たまにある				3 たまに
			4 ほとんどない				4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている
			2 利用者の2/3くらいが				2 少しずつ増えている
			3 利用者の1/3くらいが				3 あまり増えていない
			4 ほとんどいない				4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 利用者の2/3くらいが				2 職員の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが				2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 利用者の2/3くらいが				2 家族等の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が				
			2 利用者の2/3くらいが				
			3 利用者の1/3くらいが				
			4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は事業所各所に提示し、名札の裏にも入れて常に意識し、管理者と職員で実践に繋げている。			
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所のお祭りには、ボランティアやご家族を受け入れ開催した。地域のお祭りにも参加し、交流は出来ていたが、感染症の流行もあり、縮小して行った。			
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域ケア会議に参加し、情報の交換や事例検討等を行っている。運営推進会議を開き、入居者の入退居の経緯や、支援の状況の説明をし、質問を受付て理解して頂けるように努めている。			
4		3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			運営推進会議を2か月に1度開催し、町内会や役場等の関係者を招き、現況の報告や情報交換・助言を参考にサービスの向上に活かしている。
5		4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる			月に1度の地域ケア会議に参加し、各事業所との情報交換や意見交換・事例検討を行い、各事業所同士と連携しサービスの向上に心掛けている。
6		5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる			身体拘束をしないケアについては、施設内研修を定期的に行い、話し合い再度確認をして実践している。玄関の施錠は防犯の為であり、外出の希望があれば自由に施錠を解除している。
7	7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議で虐待防止に関する研修をおこない、管理者や職員一人ひとりが自己評価する機会を作っている。職員間でも声掛けの出来る関係性を築いている。			

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職場内で権利擁護や成年後見人制度に関する研修の機会を定期的に作っており、制度を学び理解できるように努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談時には十分に説明を行い、理解されるまで話し合いを行っている。不安がある場合は、体験入居を勧めるなどの柔軟な対応を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の方は、日常の会話の中で要望や願い等の確認を行っています。ご家族の方には、アンケートや面会時に聞き取りを行い、運営に反映させています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度の全体会議を開催し、職場内研修や職員からの意見や要望を提案出来る機会を作っています。意見や要望は代表者に報告し、柔軟に対応し反映に心掛けています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、働きやすくやりがいのある職場環境や労働条件の改善の為、職員の実績や努力等を把握し、代表者に報告しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を立て、職場内研修を行っている。職員の資格習得の際には、費用の一部補助を行う支援も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	役場主催の地域ケア会議や講習会の参加により、他の事業所と交流する機会を得て、利用者様の紹介や情報の交換を行い、サービスの向上に努めている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを開始時には、ご本人の願いや要望を出来る限り尊重し、柔軟な対応で安心して暮らせるように相談に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを開始する前に、ご家族の要望や不安を確認し、幅広く選択肢を提案する事で、柔軟な対応が出来るように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの利用を開始する段階で、適したサービスや必要な支援が受けられるような選択肢を提案し、他に適しているサービスがある場合は、連絡を取り相談している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念でもある「共に暮らし支え合い」を心掛け、一人ひとりの個性を尊重し願いを受け入れ、共に穏やかに暮らせるように努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のご家族へのお便りで、健康面や生活の様子等を伝え、面会等では、ご家族の意向や要望等を聞き取り、共に支えていける関係を築けるように努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症の流行で長時間の面会は自粛して頂きましたが、ご家族やお友達等の面会で関係が継続ように支援しています。行けつきの理髪店を継続されている利用者もあり、関係性が継続出来るように努めています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有空間では、仲の良い利用者を隣にし、会話を楽しめるよ配慮した。レクリエーションや行事の活動の機会を多く取り入れ、職員も参加し、利用者同士が円滑な関係を維持出来るように支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院等で退居になった場合でも、家族や医療機関と連絡を取り合い、入院中の洗濯や消耗品の補充等も行い、ご家族の要望や負担等の軽減が来るように努めています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの日常の会話や行動や表情から思いを察し、本人に寄り添ったサービスが出来るように支援しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活習慣や利用されていたサービスを、本人やご家族から聞き取り、本人が望む暮らし方の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとり、1日の心身状況や過ごし方が違うので、生活のリズムや興味のある事等、有する力を発揮出来る事の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族に生活の意向や願いを確認し、会議等で職員や看護師等からも意見を聞き取り、アイディアを反映し、現状にあった介護計画を作成するように努めています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は介護記録に記入し、変化等があれば気づきノートに記入し、職員間で情報を共有した。ご家族とは、毎月のお便りに記入して情報を伝えている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所の都合にとらわれず、ご本人やご家族の状況や要望を確認し、柔軟な対応を心掛け、協力できる事があれば支援出来るように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	希望があれば、近隣のお店に買い物に行くのに同行し安全で暮らしを楽しめるように支援した。以前は近隣のお店に外出に出かけたり、温泉施設も活用していたが、感染症が蔓延してから、地域資源の活用は少なくなっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通い慣れた専門医への継続的な受診の支援に努め、協力病院とは、訪問診療の協力を受けており事業所の看護師と主治医が連携を図り、適切な医療を受けられるように支援している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所の職員として看護師を雇用している。利用者や介護職員の心身状況を確認し健康管理を行っている。毎月のお便りで、看護師からの情報を伝え、適切な受診が受けられるように支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は職員が同行し、本人の状態等を医療機関に提供し、ご本人やご家族・医療機関と治療の選択肢を確認し、環境による認知症の進行を配慮し、退院時期について医療機関との相談に努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期について事業所が対応できるケアについての説明を行っている。疾患の進行で入退院を繰り返されるようになった時は、ご家族様・看護師・本人と話しあい希望に添える支援を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力で救急救命講習を受講し、ADLの取り扱い方法や心肺蘇生法等の確認を行っている。職場内研修で、緊急時の対応・事故防止に関する研修等を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中・夜間を想定した避難訓練を消防設備・消防署立ち合いのもと行っている。発電機の設備や災害に必要な物品を備蓄し、入居者様の顔写真入りの確認表を作成し、災害に備えている。		

Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職場内で、プライバシーの保護や認知症ケア・接遇の研修を行い、職員の意識の確認を行っています。親密な関係性を築きながらもなれ合いにならないように、一人ひとりの個性や症状を理解し、尊重する対応を心掛けております。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で自己の意思をや希望を表せるような雰囲気作りに努めています。服や飲み物等、2択にして選んでもらう事を日常的に行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	一人ひとりのペースや習慣・体調や気分等を配慮して、職員の都合を優先する事なく、希望に添えるような支援を心掛けました。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	事業所では2か月に1度の間隔で理美容の機会もあるが、行きつけの美容院に通われている方もおります。お正月やひな祭りには、希望者に着物をきてお化粧をしマニキュア等のおしゃれを楽しむ機会も作っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	感染症が流行しており、ラーメンを作って食べたり、ジンギスカンを焼いて食べる等、施設内で楽しめるように工夫をした。おやつにはたこ焼きを皆で焼き、やけど等に注意しながらひっくり返されていた。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせ、ペースト状や副食を刻んで大きさを変えたりして提供した。嚥下や咀嚼の状態にも配慮しトロミをつける等の対応をしている。疾患や体重の変動も観察して提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの支援を行っている。一人ひとりに合わせた用具を準備した。入居前から使用されているこだわりの物は、ご家族が定期的に持ってきてくれている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンは、毎日のチェック表に記入することで把握に努めている。職員2名体制でもトイレでの排泄の機会を作り、安全に自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に牛乳と朝食時にヨーグルトを提供している。毎日午前と午後に体操をする機会を作り、ラジオ体操やごっくん体操・ごぼう先生の体操等種類を増やし楽しく体を動かせるように支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	入浴日は決まっているが、順番は希望や状態に合わせて対応をし、一人ひとりのペースで負担なくゆっくり入浴出来るように支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調や一人ひとりの生活習慣に合わせた対応をしている。就寝時間も一人ひとりに合わせて気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	通院した時は、都度受診記録簿を作成し情報を共有した。処方薬表は、個々のファイルに綴り職員全体で周知いつでも確認が出来るようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の出来る範囲見極め、行事毎の飾り作りやタオルたたみ等、力を発揮出来る機会を作っている。レクリエーションでは、ホットケーキやタコ焼き等を皆で楽しく作り、楽しまれている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に合わせ、白鳥見学や桜見学・ラベンダー見学・お祭り見学等ドライブを兼ね外に出る機会を作っている。冬季は中止しているが、お天気に合わせ施設周りの散歩も希望者を募って行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時にお金は預り金として施設側で管理しているが、本人の希望で買い物に付き添い、一緒に選んで購入出来る支援も行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時に、電話をかけたり電話の取り次ぎの支援をしている。定期的にお手紙を書いてお友達等に出されている方もいる。携帯電話を持っている方もおり個々に合わせた支援を行っています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下には、行事毎の写真や個人の作品を展示したり、季節に合わせた飾り付けを行い季節感を感じてもらえるように工夫している。午前と午後に、湿度と温度を測定し、居心地よく過ごして頂けるように支援している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間では、決まった居場所があり、気の合う利用者同士を見極め、話の出来る距離に座ってもらう等の配慮をしている。居室は個室で、玄関にも椅子を配置し、一人になれる場所を作っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時は使い慣れた物を持参してもらったり、本人の状態に合わせ安全に移動が出来るように調整しています。本人の行事毎の写真や作品を貼る等、居心地良く過ごせるように工夫しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口には表札や本人の写真を貼ったり、トイレへの目印を貼る等、自立して活動出来るように配慮している。キッチンから共有空間全体を見渡せるようになっており物の配置等は定期的に話し合い安全な環境作りをしている。		